

広域人事だより

<第13号>

～②広域異動終了者編～

(令和元年11月28日発行 北海道教育庁教職員局教職員課人事企画G)

広域人事での異動を終了し、現在元の管内で活躍されている先生方から近況報告をいただいたので、御紹介させていただきます。

「広域人事だより第13号」＜②広域異動終了者＞ 執筆協力者

頁	管内	市町村名	学校名	氏 名	広域人事異動先管内、所属等				広域人事 異動年月日	広域人事 終了年月日
					区分	管内名	市町村名	学校名		
1	空知	栗山町	栗山中	黒沼 祥文	中堅	日高	えりも町	えりも中	H28.4.1	H31.3.31
2	石狩	江別市	江陽中	阿部 博仁	中堅	後志	岩内町	岩内第二中	H27.4.1	H30.3.31
3	後志	小樽市	潮見台小	森田 麻紗子	若手	胆振	苫小牧市	拓勇小	H26.4.1	H30.3.31
4	胆振	苫小牧市	ウトナイ小	安田 宣彦	若手	釧路	釧路市	鶴野小	H26.4.1	H29.3.31
5	日高	平取町	紫雲古津小	木元 卓矢	若手	石狩	千歳市	末広小	H28.4.1	H31.3.31
6	渡島	函館市	青柳中	水口 力	中堅	檜山	せたな町	北檜山中	H28.4.1	H31.3.31
7	檜山	厚沢部町	厚沢部中	鳥海 陽一	若手	渡島	函館市	本通中	H27.4.1	H30.3.31
8	上川	旭川市	緑新小	永田 尚子	中堅	林-㇏	斜里町	斜里小	H26.4.1	H30.3.31
9	留萌	留萌市	緑丘小	阿部 志保	若手	上川	旭川市	大有小	H26.4.1	H29.3.31
10	宗谷	稚内市	稚内東小	戸澤 百合子	若手	上川	旭川市	北星中	H27.4.1	H30.3.31
11	林-㇏	北見市	高栄中	面 由佳	若手	上川	旭川市	緑が丘中	H28.4.1	H31.3.31
12	十勝	幕別町	明倫小	植村 顕	中堅	林-㇏	遠軽町	白滝小	H28.4.1	H31.3.31
13	釧路	釧路町	富原中	阿部 均紀	若手	十勝	帯広市	大空中	H28.4.1	H31.3.31
14	根室	中標津町	広陵中	大槻 翔士	若手	十勝	音更町	共栄中	H28.4.1	H31.3.31

(広域異動終了者)

氏名	黒沼 祥文	現任校	栗山町立栗山中学校（空知）	前任校	えりも町立えりも中学校（日高）
----	-------	-----	---------------	-----	-----------------

○現任校での勤務状況

広域異動終了後の1年目である今年度は、第1学年担任、理科（1年生2クラス、3年生2クラス）、生徒指導部（校内）、男子バスケットボール部の顧問を担当しています。年齢層のバランスがよく、校内組織もしっかりと構築されているため、様々なことがスムーズに進んでいくという印象です。



○広域異動により経験できたこと

《地域について》

えりもの主要産業である昆布漁の時期には、生徒も朝早くから漁を手伝い、その後に学校に登校するなど、生徒が仕事しながら勉強に取り組む姿に感銘を受けました。

《教員として》

空知から前任校へ異動したときに一番衝撃を受けたことはベテラン教員の少なさでした。全教員の平均年齢が非常に若く、採用一校目の先生方が多くいる状況でした。空知ではまだまだ若手のポジションであった私にとって、このような環境で、学校の中心となって様々なことを進めていくことや組織として足りないことを新たに構築し、伝えていくことは大きな経験となりました。



後輩教員へ伝える立場になったということで、自分自身が今まで行ってきたことを振り返り、なぜそのように取り組んだのか、より良くするためにどのように取り組めば良いかを再度考える機会となりました。また、後輩教員の熱意などは逆に見習うべきものとして勉強にもなりました。

3年間のうちの2年間は生徒指導、最後の1年は研修として、勉強・実践・振り返りを繰り返しながら、生徒・地域・学校の現状にあった取り組みとは何かを考えて過ごしました。

○広域異動の期間中に苦労したこと

教科が理科ということもあり、実験での消耗品の入手には苦労しました。週末などの時間がとれる時を利用して、帯広などへ行くことも多くありました。町内で過ごす上では特に苦労することはありませんが、部活動や私的なことで外に出る場合に、移動時間がかかりかかることは人によっては苦労することかもしれません。

苦労とは別ですが、強風により安全のためにスクールバスが運休になってしまうことや雨が多く降ると通行止めになる可能性がある、風雨による停電なども経験しました。

○広域人事異動を希望する教員へのメッセージ

私自身が教員として今まで行ってきたことを、改めて振り返るよい機会になると思います。なぜこのように今まで指導してきたのか、どうしてこのような声かけをしてきたのかなどを考え、生徒や地域にあった方法を模索していくことは、どこで勤務してもすることですが、大きく環境を変えることにより、より強く意識して行うことができると思います。

(広域異動終了者)

氏名	阿 部 博 仁	現任校	江別市立江陽中学校 (石狩)	前任校	岩内町立岩内第二中学校 (後志)
----	---------	-----	----------------	-----	------------------

○現任校での勤務状況

本校は、希望・誠実・健康を校訓に全校生徒269名の生徒が落ち着いた学校生活の中で学習に取り組んでいます。また、学校の顔づくり事業として『花

と緑の江陽』『ボランティアの江陽』『音楽合唱

の江陽』の三つを教育活動

の中に取り入れています。

このような本校で、私の

学年所属は第2学年副担任

です。校務分掌は、研究部。教科指導は、1年生(3学級)・

2年生(3学級)の社会科及び2年生(3学級)の道徳科(ローテーション道徳)です。

部活動指導は、卓球部を担当しています。

○広域異動により経験できたこと

まず着任して驚いたことは、若い先生方が多かったことです。年齢が二回りも違うことに驚かされました。一緒に学年を組んだ若い新卒採用の先生の第一声が「阿部先生、僕のお母さんと同じ年です!」でした。時の流れの速さと身が引き締まる思いでいっぱいだったことを今でもはっきりと覚えています。そのような学校に3年間身を置くことができ大変刺激になりました。

次に校長先生の強力なリーダーシップの下、学校(全校生徒)が変わっていく様子を体感することができました。校長先生は、とにかく先頭に立って若い先生方への見本となっていました。それは、職員に対する指示や指導方針が明瞭でわかりやすいものでした。道徳の授業も率先して実践されていました。右の写真はその時のものです。山本五十六の言葉、『やってみせ、言って聞かせて、させてみせ、ほめてやらねば人は動かじ。』を常に実践されていました。自分が在籍した3年間で学校が大きく変わったと思います。一つは、生徒が頑張ろうとする意識の変化。もう一つは、教職員の意識の変化。これらが相まって、学力が向上していったと思います。

結びになりますが、“特別の教科 道徳との出会い”も貴重な経験となりました。2年目の道徳推進校事業をきっかけに真剣に勉強を始めました。毎月一度、札幌の市立中学校に通いました。往復の距離200kmも苦になりませんでした。そのお陰で関東や近畿で行われる道徳の学会や学習会に参加する機会を得ることも出来ました。

その他に3年目に研究部の創設に関ることが出来ました。創設に伴い、道徳の先行実践取り組みや新学習指導要領への取り組み等が研究部の業務となり、自分自身が真剣に勉強する場を与えていただきました。

○広域異動の期間中に苦労したこと

北海道内でありながら石狩とは勝手が違うところに戸惑いもありましたが、後志の先生方に支えられて3年間の勤務を何とか全うすることができ感謝しております。

○広域人事異動を希望する教員へのメッセージ

異動した先の先生方と協力して生徒を成長させたいという思いは一緒です。住めば都という言葉があります。岩内は、私にとって第二のふるさとのようなものになりました。教員住宅周りの除草や除雪をしているとご近所の方々が声をかけて下さりました。岩内の風はものすごく強く身に沁みましたが、地域の方々は温かく心が大変和みました。自分のスキルアップのためになった3年間でした。



(広域異動終了者)

氏名	森田 麻紗子	現任校	小樽市立潮見台小学校（後志）	前任校	苫小牧市立拓勇小学校（胆振）
----	--------	-----	----------------	-----	----------------

○現任校での勤務状況

小樽市立潮見台小学校は、学級数15学級（特別支援学級3を含む）、全校児童280名からなる学校で、小樽市の中心部に位置しています。観光地に近く、歴史的建造物も学校周辺に点在しており、大変恵まれた環境です。

本校は、国語科の「読むこと」領域の研究に力を入れており、言語活動の充実をテーマに取り組んでいます。友だちと積極的に交流し課題を解決することで、豊かに読む力を身に付ける授業の創造を目指し、毎年9月には、公開研究授業を行っています。ここ数年は、京都女子大学教授の水戸部修治氏を招いて研究を深めています。

小樽市に赴任して1年目は1年生を、2年目は3年生の担任をしています。どの学年も学級数が2クラスで、1クラス25人前後と大変受けもちやすい児童数です。校務分掌は、教育支援係で、入学式や卒業式の儀式をはじめ、参観日、個人懇談等を担当しています。

○広域異動により経験できたこと

苫小牧市立拓勇小学校は、苫小牧市東部の新興住宅街として発展めざましい沼ノ端鉄北地区に、平成14年に開校した新しい学校です。開校後、児童数が急増し、2回の分離を経て、現在は、27学級（うち特別支援学級3学級）、児童数782名の大規模校です。校舎のデザインが近代的で、1階には3階までの吹き抜け大ホールがあり、ここでは、地域・保護者の方も聴くことができる吹奏楽部の定期演奏会を開催しています。エレベーターも完備されていて、車いすの児童も安心して登校することができます。

拓勇小学校は、「拓勇PRIDE（プライド）！」をキャッチフレーズにして、児童が「私たちは拓勇小の子」と胸を張り、自信をもって色々なことに挑戦できる学校づくりを目指し、教職員も「チーム拓勇」として一丸となって学校教育に取り組んでいました。

5・6年生では、中1ギャップの解消を目的に教科担任制を実施していました。担任団で話し合い、なるべく自分の得意分野を活かせる教科を受けもちました。私は、図工が専門なので、学年全ての図工を受けもったこともありました。各学級の時間割をパズルのように組み合わせるので、とても大変ですが、自分の専門性を活かした授業を行える上、中学校のように同じ単元を繰り返し指導することで、指導技術を向上させることができました。

また、毎年11月に「いじめ根絶集会」を実施しました。苫小牧市全体で、いじめ根絶に取り組んでいて、拓勇小学校でも児童会を中心に、いじめを根絶の取組を定期的に行いました。私は、4年間のうち3年間、児童会を受けもたせていただき、児童とともに学校をよりよくするために考え活動できたことは、大きな財産となりました。

○広域異動の期間中に苦労したこと

3月の繁忙期の賃貸物件探しや、引っ越し業者の手配が大変でした。引っ越し料金が高かったです。



↑ 苫小牧市立拓勇小学校 ↑

○広域人事異動を希望する教員へのメッセージ

新しい土地でのスタートは、新鮮で多くの学びや発見がありました。特に、苫小牧市立拓勇小学校は、専門性の高い先生が多く、レベルの高い指導法を直接学ぶことができました。後志管内では、単学級や複式学級を受けもつことが多かったのですが、拓勇小学校では、学年団の組織的な動きや繋がり大切さを学ぶことができました。大規模校での経験は、私の教員人生にとって大変貴重なものとなりました。皆さんも、ぜひ、広域人事異動を活用し、他管で学び、視野を広げ、今後の教員生活を豊かなものにしてほしいと思います。

(広域異動終了者)

氏名	安田 宣彦	現任校	苫小牧市立ウトナイ小学校（胆振）	前任校	釧路市立鶴野小学校（釧路）
----	-------	-----	------------------	-----	---------------

○現任校での勤務状況

広域人事による異動で、釧路市立鶴野小学校に平成26年度から平成28年度まで3年間勤務しました。その後、平成29年度から現任校に勤務し、現在に至ります。現任校は全校児童840名で、管内で最も児童数の多い学校です。今年度は指導方法工夫改善教諭として、5、6年生の算数の少人数指導を担当しています。また、校務分掌は生徒指導部長となり、他の教職員と協力しながら学校全体の問題を把握し、組織として対応できるように心がけながら活動しています。学校規模は違いますが、広域異動の際に経験したことを生かしながら日々の教育活動に励んでいます。



○広域異動により経験できたこと

他管に異動することにより、自分の指導方法等の視野を広げることができました。周りの先生方に助言をいただいたり、相談したりしながらこれまでの学習・生活指導の仕方を見つめなおし、改善につなげることができたと思います。また、計画的に実践したり記録したりすることが大切であるということを確認しました。日々の授業や児童とのかかわり、分掌の活動の様子等の記録を詳しく取り、以降の実践に生かしていくことを心がけるようになりました。そして、釧路には教育大があることから、学生が週1回学校を訪れることも新鮮でした。学生への助言を通して自分の教育活動を振り返り、改善を図ることができたことも良い経験になりました。

○広域異動の期間中に苦労したこと

家族の事情で単身赴任での勤務になり、月に1～2回程、週末に自宅に帰るという生活でした。体力的に少し厳しく感じましたが、勤務校では周りの職員や地域の方にいろいろとお世話になり、フォローもしていただけただので、日常生活で大きな苦労を感じることはありませんでした。

○広域人事異動を希望する教員へのメッセージ

自分のこれまでの勤務状況を見つめ直し、新天地で新たなスキルを習得するためには、広域人事での他管への異動は有益だと感じました。いろいろな学校の教育活動を直に経験することで、自分の視野を広げることにもなります。また、教師同士や地域とのかかわりなど、人との繋がりを広げることもできます。ぜひ、挑戦することをお勧めします。

(広域異動終了者)

氏名	木元 卓矢	現任校	平取町立紫雲古津小学校（日高）	前任校	千歳市立末広小学校（石狩）
----	-------	-----	-----------------	-----	---------------

○現任校での勤務状況

紫雲古津小学校は、全校児童24名、低学年が単式、中・高学年が複式の学級です。私は中学年の学級担任をさせてもらっています。教員人生初の複式授業です。まだまだ慣れない部分がありますが、周りの先生方や関係機関の皆様のおかげで、子どもたちが主体的に学ぶことができるような間接指導と直接指導のバランスの大切さが分かってきました。



本校のよさは、異学年同士の児童のつながりが強いということです。そのメリットは、上の学年の姿を常に下の学年が見習うことができるという点です。日々の学習や生活の仕方もそうですが、伝統である「一輪車」の技術もしっかりと下の学年に受け継がれています。

○広域異動により経験できたこと

組織的な学校経営の中で、役割を担い、お互いに助け合うような強い職員間の連携の大切さを学ぶことができました。職員の皆さんは大変親身に色々なことを教えてくださいました。

広域異動によって気付いたことは、児童の学習指導や生徒指導の在り方というのは、地域によって大きく変わらないということです。特色ある教育活動や児童の実態に合わせるという点を除けば、教育の内容はほとんど変わりません。ただし、その地域・児童によって教育方法は変わります。

このようなことから、教育の機会均等という点がより意識できるようになり、責任感・使命感が高まりました。

○広域異動の期間中に苦労したこと

地域によって保護者の職業や生活、考え方が当然違いますので、家庭や地域との連携で戸惑った部分がありました。しかし、学校、家庭、地域で同じ方向を向いて児童を育てていくという視点で連携をしていくことは、どの地域であってもとても大切なことだと気付きました。

○広域人事異動を希望する教員へのメッセージ

広域人事を経験させてもらい、より広い視野をもつことができました。具体的に挙げると、1点目は学習指導や生徒指導で本当に大切にしなければいけない核の部分が見えてきたことです。2点目は、教育に求められていることが少しずつ分かってきたことです。地域が求めるもの、道が求めるもの、国が求めるもの。そして、それらのものが児童の将来のことを考えると非常に必要不可欠なものだということを身をもって理解できました。

資質・能力の育成、また、それを実現するための主体的・対話的で深い学び。まだまだ自分の中では追究しなければいけないことはたくさんありますが、その鍵（土台）となる知識や経験、考え方を広域人事制度は与えてくれた気がします。

また、実生活でも、広域人事がきっかけとなって充実してきた部分がたくさんあります。

私は広域人事異動をさせてもらってよかったと思っております。それは、上記のような利点が自分にはあったからです。北海道教育委員会や関係機関の皆様には大変感謝しています。この広域人事だよりが何かの参考になれば幸いです。

(広域異動終了者)

氏名	水口 力	現任校	函館市立青柳中学校（渡島）	前任校	せたな町立北檜山中学校（檜山）
----	------	-----	---------------	-----	-----------------

○現任校での勤務状況

【担当学年】

1年B組31名の担任をしています。前任校に比べて学級の生徒数が増え、なかなか全員に目が行き届かないことや集団と個の指導のバランスに戸惑うことがありました。しかし、経験豊富な先生方に支えられながら、徐々に慣れることができました。そして現在は学年団の組織的な動きやつながりの大切さを改めて感じながら勤務しています。

【教科】

1年生3学級と3年生2学級の保健体育を担当しています。前任校は小規模校のため、限られた環境で教育活動をしていましたが、現任校では生徒数が増え、様々な取り組みができるようになりました。また、同じ教科の先生から助言をいただきながら、生徒が主体的に学べるような学習課題を設定し、グループ学習の中で問題解決をできるような支援を目指して進めています。

【分掌】

校務分掌は生徒指導部に所属しており、体育的行事と教育相談などを担当しています。今年度は統合2年目のため、旧3校の良さを引き継ぎながら、昨年度のものを生かして現状に合う提案を行い、教職員が共通の認識をもって生徒への指導にあたるように留意しています。

【部活動】

部活動は野球部を担当しています。副顧問ということもあり、主顧問の先生をできる限りサポートしながら、技術指導や生徒指導にあたっています。試行錯誤しながらの活動ですが、自分自身の専門種目になるので前任校までの指導経験を生かしながら、楽しく指導にあたることができています。

○広域異動により経験できたこと

地域毎に学校教育の方法の違いを知ることができました。それぞれの良さや特徴を理解した上で多様な考え方を知り、今までの管内で学んだこと以外の発見もあり、自分自身の財産になりました。分掌では教務と生徒指導を経験させていただき、業務全般の企画・推進に携わりました。地域が変わっても、生徒（子供）は同じで、保護者や地域の方々の願いなどは変わらないことを再確認し、どこであっても生徒のために教育活動を行うことができました。

○広域異動の期間中に苦労したこと

単身赴任ということもあり、家事全般で苦労しましたが、それ以外の苦労は感じませんでした。自分から学ぼうとする姿勢があったので、多少の違いや変化にも対応することは苦にはならなかったです。

○広域人事異動を希望する教員へのメッセージ

多くのことを学び、多くの人との繋がりができ、たくさんのことを学ぶことができるよい機会なので、可能であれば挑戦してみてください。私自身は、充実した3年間を送ることができ、満足できる日を過ごすことができました。

